

わたしたちの難民問題

2022 vol.23



紛争や迫害を逃れ、家を追われた人が、
世界各地に約1億人いるといわれています。
日本にも様々な国から難民が庇護を求めてきています。
難民の現状を知り、私たちにできることは何か、
一緒に考えてみませんか。

11/16(水) 『レバノンにおけるシリア難民教育支援について』

佐藤 秀美さん(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン海外事業部)

人口の5人に1人が国外から避難してきた難民であるレバノン。シリア危機、経済危機、新型コロナウイルス感染症等の影響を受け長期間学校に通えていない子どもたちに対する読み書きと計算の授業や、学習の遅れがあり、中途退学の高リスクな子どもたちへの補習授業を提供する事業を実施している NGO スタッフより、現地の難民の状況や支援活動について聞きます。

11/30(水) 『難民として日本とオーストラリアに暮らして』

グエン・クオク・トゥアンさん(難民事業本部元通訳)

10代後半で難民として来日した講師から、なぜベトナムを離れなければならなかったのか、同胞のために通訳として活躍した後、なぜオーストラリアに移り住むこととなったのか、自身の難民としての経験と、通訳として支援した難民コミュニティについて、また日本とオーストラリアの難民受け入れの違いについてお話いただきます。

12/7(水) 『ウガンダにおける難民支援』

古林 安希子さん(UNHCR ウガンダ ユンベ事務所)

南スーダン、コンゴ民主共和国、ブルンジ等から150万人以上の難民を受け入れているアフリカ最大の難民受入国ウガンダ。政府の「オープンドア・ポリシー(開かれた政策)」による受け入れコミュニティでの共生の状況、政府と連携したUNHCRによる保護と人道支援について、現地で活動するUNHCR職員から伺います。

12/14(水) 『ウクライナ避難民支援について』

島田 三津起(兵庫県国際交流協会)・鈴木 功(アジア福祉教育財団難民事業本部)

ウクライナ避難者支援担当者(日本YMCA同盟)

ロシアの侵攻以降、約2000人が来日したウクライナ避難民。それぞれの分野で支援活動を行う各団体より、兵庫県における公民が連携した生活支援、世界ネットワークを生かした避難支援、身元引受がない方への支援について、現場を担う職員がお話しします。

時間：19:00~20:30

定員：40名(要事前申込:各回の前日17時にメ切)

参加費：無料

会場：ZOOMを利用したオンライン講演会(申込者には当日の〈招待URL〉をお送りします。)

申込方法:右記の2次元コードを読み取り、申し込みフォームよりお申込みください

問合せ先:難民事業本部関西支部

078-361-1700 / kansai@rhq.gr.jp

神戸YMCA国際・奉仕センター

078-241-7204 / houshi@kobeymca.org

兵庫県国際交流協会

078-230-3090 / hia-ex-co@net.hyogo-ip.or.jp



<http://onl.la/PHU1Dc6>